

「岡崎邸」物語

鳥取“を”残す武家屋敷

第二版



みんなで
鳥取を考えよう!

特定非営利活動法人
発行／NPO市民文化財ネットワーク鳥取

●岡崎邸の歴史～江戸時代～

岡崎家の先祖は作州（岡山県北部）・津山の森家という大名につかえていましたが、寛文5年（1665年）年に池田家に召しかかえられ、鳥取へ移り住み、代々「平内」と名乗りました。

しかし、5代目の平内可之のころ鳥取藩は82万両と藩政が始まって以来最悪の借金を抱えていました。その立て直しに活躍したのが平内可之だったのです。

鳥取藩の財政の立て直しに効果をあげた平内可之は、その仕事ぶりを認められて今の地・馬場町の屋敷を与えられています。現在残っている岡崎邸は天保6年（1835年）に（主なところが）建築されたと思われています。

●岡崎邸の歴史～明治～

時代が江戸から明治に変わり、鳥取藩が廃止され鳥取県となって新しい政治の仕組みが作られました。今の都道府県は基本的には江戸時代の藩の領地をもとに決められました。しかし、明治9年（1876年）に鳥取県は島根県に併合され、いったん無くなってしまったのです。

この時、7代目の岡崎平内可親たちは鳥取県を復活させようと愛護会というグループをつくって鳥取県再建運動を展開しました。その結果、明治14年（1881年）に鳥取県は復活、平内可親は初代鳥取県議会議長を務めました。

CHECK!

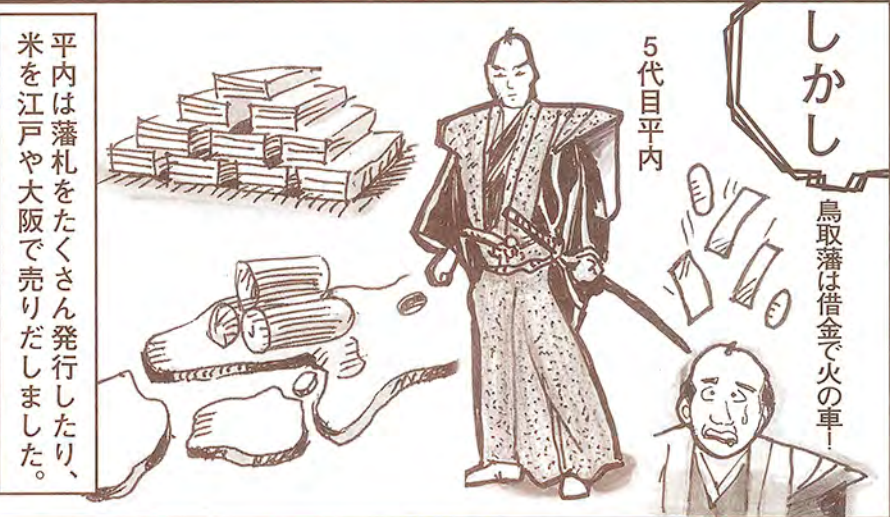
七代目・岡崎平内可親（よしみ）の事業

政治家として活躍した人物としては、初代鳥取市長も務めた七代目・岡崎平内可親があげられます。平内可親は教育面、福祉、勸業の面でも活躍しました。明治15年困難した士族を救済するため「因伯私立蘭生系共進会」を開設しました。また、明治16年には経済的に困難な人のために養育院を開設。そして鳥取県に高等小学校を開設することを県に建議し、明治18年には鳥取高等小学校（のちの久松小学校）が開設されました。

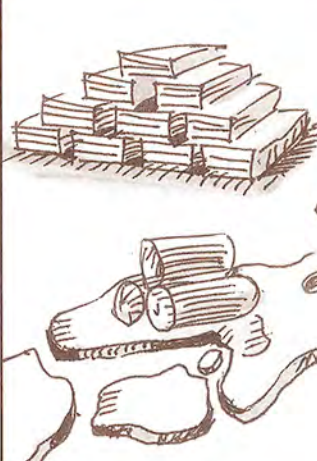
ワシの先祖は津山におったが、池田家に召しかかえられて鳥取に来たのじゃ。そして代々「平内」と名乗ったのでござる。



では、ワシの家のルーツを探ろう。



平内は藩札をたくさん発行したり、米を江戸や大阪で売りだしました。



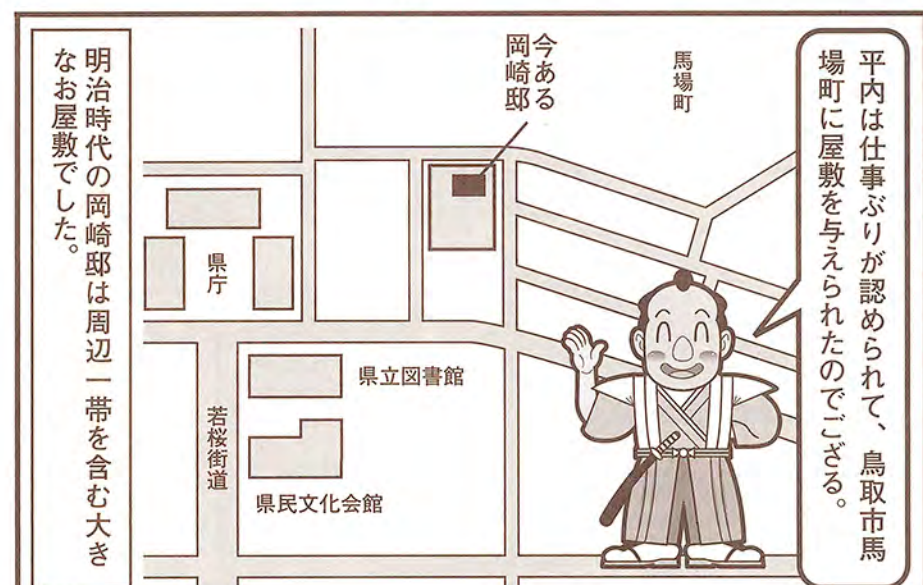
しかし、鳥取藩は借金で火の車！



かしこまりました

つづいて平内に泰姫御殿の建築を命じよう。

あつぱれ
その甲斐あって鳥取藩の財政は立ち直りました。



明治時代の岡崎邸は周辺一帯を含む大きなお屋敷でした。



平内は仕事ぶりが認められて、鳥取市馬場町に屋敷を与えられたのでござる。

読めば「鳥取」がよくわかる

～岡崎邸って何？～

「岡崎邸」と聞いて、みなさんはその場所や特徴、分かりますか？ ニュースで聞いたことはあるけど、その内容はよく分からないという人は多いはず。実はこの岡崎邸、今の鳥取の「生き字引」といえるくらい、鳥取の歴史と共に生きてきた人の家なのです。そんな岡崎邸の歴史や特徴、そして生活やごぼれ話をご紹介します。



もっとよくわかる

わしが岡崎じゃ

「岡崎邸マメ知識」

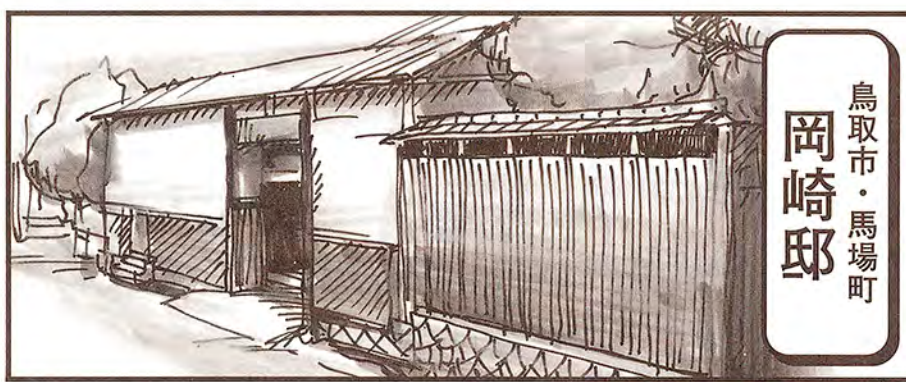
●鳥取の武家屋敷

岡崎邸のような屋敷を「武家屋敷」といいます。武家屋敷とは江戸時代「武士」が住んでいた家で、江戸時代には全国の城のあるマチ、城下町には必ずあった建物でした。

城下町である鳥取市をはじめ鳥取県にも数多くの武家屋敷がありました。今から約140年前の1867年（慶応3年）には約4420世帯があったという資料が残っています。こうした武家屋敷は明治に入り、その多くが取り壊されました。鳥取市の場合、これに加え鳥取地震や鳥取大火などの災害で大半が無くなりましたその後も、ビル建設など都市の開発の中でほとんどが失われ、今では岡崎平内邸と福田丹波邸（裁判所前）の2つを残すだけになってしまいました。

●岡崎邸の場所

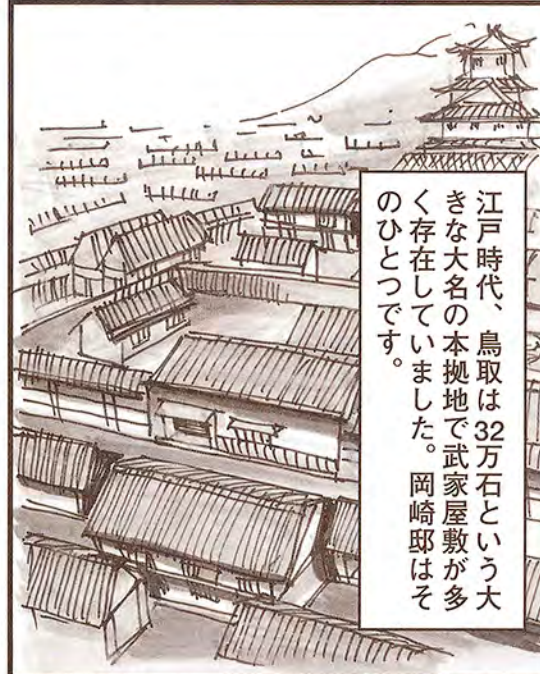
J R鳥取駅北口を下りると目の前に久松山が見えます。ここには江戸時代から明治時代のはじめまで鳥取城がありました。鳥取を治めていた大名・池田家の居城で、鳥取県東部「因幡」と鳥取県西部「伯耆」を支配する全国で13番目の32万石という大きな大名の本拠地でした。岡崎邸はこの久松山のふもとの馬場町というところにあります。当時、人の住まいは「ここは商人」「ここは武士」というように身分で決められていました。お城に近い所、お堀の前は藩家老など重要な職につく人々が住む場所でした。



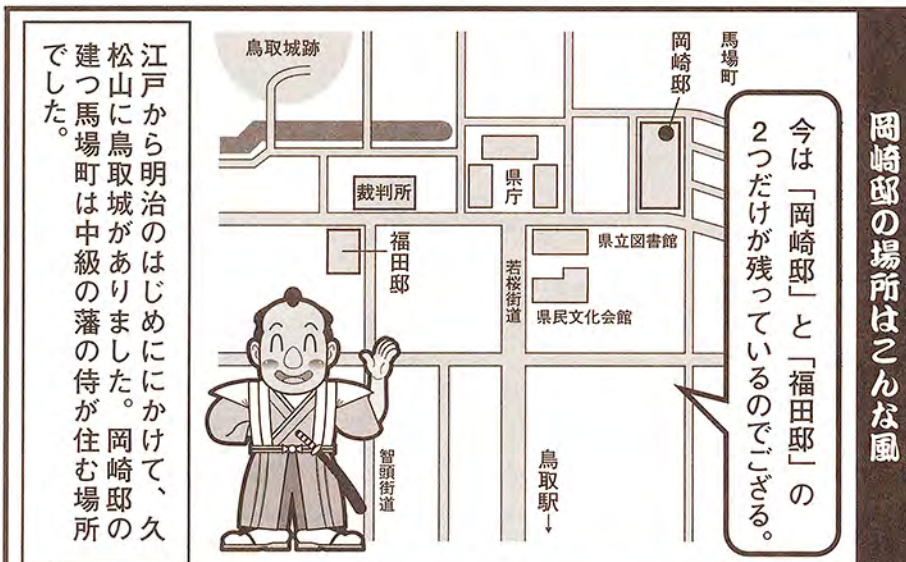
鳥取市・馬場町
岡崎邸



しかし、多くは取り壊されたり、鳥取大火などの災害で失われました。



江戸時代、鳥取は32万石という大きな大名の本拠地で武家屋敷が多く存在していました。岡崎邸はそのひとつです。



今は「岡崎邸」と「福田邸」の2つだけが残っているのをごぼる。

岡崎邸の場所はこんな風

江戸から明治のはじめにかけて、久松山に鳥取城がありました。岡崎邸の建つ馬場町は中級の藩の侍が住む場所でした。



マメ知識
中田正子さん
 岡崎邸に住んだ人として知っておきたいのが中田正子さんでした。中田さんは日本で最初の女性弁護士で昭和25年（1950年）から平成14年（2002年）までの52年間という長い間、この建物で暮らし弁護士として活躍しました。

●岡崎邸の特徴
 岡崎邸は歴史を伝える建物です。例えば建物は当時の武家屋敷と比べ美しく丁寧な仕上げとなっていました。また、柱杉の太さは5寸2分（約16cm）と当時の武家屋敷の4寸（約12cm）を上回り、土台には丈夫な栗の木材を使うなど、床下も丁寧な造りがされています。また、壁土も良質なものが使われています。「数寄屋風」の要素を取り入れた“粋”な造りにもなっていました。

CHECK!
特定非営利活動法人NPO 市民文化財ネットワーク鳥取
 鳥取の歴史遺産や文化を見直そうという運動の中で、岡崎邸、池内邸保存のために立ち上げたのが「市民文化財ネットワーク鳥取」。04年4月NPO法人認可。

●岡崎邸が教えてくれること
 「“鳥取”の歴史ある建物には“鳥取”という歴史の物語がある」。岡崎邸を見ているとそんなことが思えてきます。
 歴史的な建物は、それを通じて鳥取の人々が鳥取に対して誇りをもったり、またよそから来た人々と交流できる場所とするような、その建物を活かすことも考えなければいけません。そのためには、武家屋敷も建物だけでなく、その歴史から武家屋敷のある鳥取市の歴史や文化を知って、鳥取のために活用方法を工夫することが大切です。

岡崎邸の住人は変わり…
 7代目平内
 中田正子さん
 平成14年までは日本初の女性弁護士・中田正さんが住んでいました。

しかし
 中田正さんが亡くなった。
どうなる岡崎邸
 ここ近年岡崎邸を守ろうという運動が活発化！
 文化財保存ネットワーク
 保存して活用しよう！

久松山
岡崎邸
 専門家の調査の結果、当時の武家屋敷と比べて太い材を使い、「数寄屋風」が見られるなど、非常に珍しい造りになっています。
 おお！ワシの家はそんなに貴重だったのをごさるか。
 さあ諸君、岡崎邸を見てきたけど、何か気づいたことはないかな？
 建物には鳥取という歴史の物語があるのでござる。

“質実剛健”文化の都市鳥取
 後世に文化遺産を伝えよう。そして活用。保存。
 訪問客
 みんな岡崎邸を通じて“鳥取”を考えよう！
 鳥取の人々

時代は江戸から明治へ
 生活、文化、政治が変わった。
 1876年 島根県
 実はこの時、鳥取県は島根県と統合され、いったんなくなったのでござる。

1881年 新鳥取県復活!!
 鳥取県
 平内の活動で
 7代目平内は「愛護会」を結成し鳥取再建運動を始めます。
愛護会結成

平内は
 初代鳥取県議会議長
 初代鳥取市長
 帝国議會議員
 を務めました。
 また、武道にも力を入れ、「雖井蛙流」を普及させました。雖

岡崎邸の暮らし
 岡崎家の暮らしぶりを見てみよう。
 親に呼ばれると、敷居に手をついて「お呼びですか」と言っていたのでござる。
 正月にはたくさん集まって酒が振る舞われたのでござる。
 祖父母が箸をつけるまでは決して先には食べなかったそうじゃ。
 つまり「年上を敬う気持ち」「侍としての心構え」があつたのでござる。

●岡崎邸の暮らし
 7代目・平内可観の孫で女医として活躍した岡崎豊子さんの書いた本「時の流れに」には岡崎家の家風が書かれています。
 「医学部を卒業して医師になると決まったときは父親から短い刀をもらいました。（中略）“医者として責任をとらなければならないときにこれを使え”と父はいいました」
 明治以降も岡崎家には武士の家の雰囲気は息づいていました。“責任は自分でとる”ということも武士は大切にしましたが、岡崎家にはその伝統がありました。

●岡崎邸の歴史 ~明治~現代~
 藩の財政を立て直した5代目・平内可之、政治家として活躍した7代目・平内可観と、鳥取の重要な人物の住んだ岡崎邸でしたが、平内可観が亡くなった8年後、大正14年（1925年）に屋敷は他人の手にわたることになりました。
 その後、岡崎邸は何人かの人の手に渡っていき、その間に道場、茶室、蔵、長屋門などは取り壊され、現在の岡崎邸のみが残っています。

CHECK!
「雖井蛙流」とは
 7代目平内可観は剣道の復興にも力を注ぎ屋敷内に剣道場を開き「雖井蛙流」（せいありゅう）を普及させました。「雖井蛙流の意味は「井の中の蛙（かわず）」といえども」という意味で「狭い範囲のことでもそれを極めれば普遍的な真理を知ることができる」というのが教えといわれています。深尾角馬が「鳥取という場所でも「剣」は極めることができる」という独特の流派をつくりました。現在、鳥取市の無形文化財になっています。

【主人の間】

「北側のこの部屋は誰の部屋ですか？」
「主人の部屋だ」
「根本も面皮仕立てにしてあげてほしいね」

美しい面皮仕立ての天井

栗の木だ。栗は湿気に強い

床板は磨いてありますね。何の木ですか？

ここは根本天井になっている

【普段の生活の間】

「この部屋は家族が日常使用する」
「数居は何の木ですか？」
「みずめざくら」だ
「色々な木を使っているんですね」
「木下孝一様様が『この建物は、木を良く知っている大工が建てた』といわれたように用途に応じて木を使い分けている」

主屋根を支える登り梁構造

屋根裏はどうなっていますか？

「太い登り梁は二重になった敷居しきぎたを用いてしっかりとした小屋組になっている」
「敷居がふたつに重なっているのはなぜ？」
「お互いに継手つぎこの位置をずらすことで弱点を補い、建物を頑丈にしているのだ」

木下孝一様梁

※日本の代表的な数寄屋大工様梁

コラム 地震に強い岡崎邸

「この建物は、昭和18年の鳥取震災の時、被害が無かったんですか？」
「ほとんど無かった」
「地震に対して何か工夫がしてあるんですか？」
「厚い鴨居や壁もその一つ。岡崎邸の壁は地震に強い」
「土台をけずって石が土台に食い込むようにしてあったわ」
「あれもひとつの免震効果をもたらす」

床下・壁

床下が高く、膝立ちで歩ける。この高さも湿気対策だわ

湿気に強い高い床

「格子戸の材料の木は何かわかるか」
「栗かな」
「その通り。栗は湿気に強いうえ、固い。簡単にはこわれない」

家の基礎といえる部分にもこだわりがみられる。特に床下は湿気に対しては強く、また壁には丈夫な素材が使われている

優れた強度を持つ壁

「わらくずを須佐」という。グニヤグニヤなのは十分に壁土を発酵させてあるからだ。このような須佐がたくさん入っているほど壁はくずれにくい」

わらくずがグニヤグニヤだ。土とわらくずがよくついている

床下の材は全て栗だ

それでは、床下の木が湿気で腐るといふことは無いわけですね

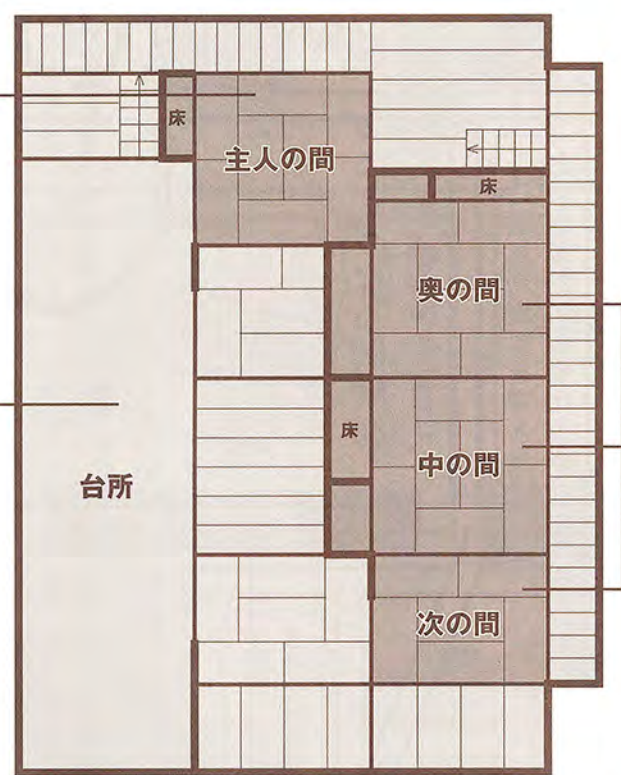
「床下の地面、固いわ。なぜかしら」
「よく気づいたな。地盤改造をして、たたきにしてある」
「それで湿気が上がってこないのね」
「この屋敷は梅雨の季節でも、部屋がカラッとしている」

「岡崎邸の壁は良い壁なんですね」
「壁が丈夫だと建物はこれくらいいいですか？」
「その通り。岡崎邸の壁土には発酵バクテリアがたくさん入っているからこれを使えば良い壁が作れる」

タイムスリップ「岡崎邸」へようこそ

平内がご案内

岡崎邸は地元市民グループと専門家による調査の結果、その構造やつくりが非常に優れていることがわかりました。そこでチュウ太、トヨ子の2人が時代をスリップ。当時の屋敷のつくりを、主人・平内に案内してもらいました。



旧岡崎邸建設当初推測図

よろしい。案内しよう

こんにちは。平内さん、屋敷を案内してください

トヨ子

チュウ太

平内

【奥の間 中の間 次の間】 部屋案内

ここは書院の間だ。来客や殿様の使者などを迎える時に使用する

隣の部屋も書院の間ですね

1階には家の中心ともいえる部屋が配置される。部屋の板や柱などの仕上げは丁寧なつくりがされているのも特徴的

三部屋続きの広大さ

板、柱がよく手入れされ、黒光りして重厚な雰囲気部屋ですね

「黒い柱に赤い部分が有って美しい。赤いのは何ですか？」
「杉の木皮を剥ぐとこのようになる。面皮という。木の性質をうまく取り入れてある。このような柱は基本的に丸太なので家も丈夫だ」

二つの部屋は、間の柱・大棟をおおふすま・敷居を取り除くと、一続きになり三部屋続きの広い部屋になる

広くて、天井も高くゆったりとした感じの武家屋敷だわ

鳥取再発見! 「山の手」歴史の散歩道

岡崎邸のある馬場町かいわい、久松山下に広がる「山の手通り」は寺院などが立ち並び、城下町・鳥取の面影を残す「歴史の散歩道」です。屋下がり、歩きながら鳥取の歴史を感じてみませんか。



「山の手」歴史の散歩道 (所要時間: 約3時間※)

- 旧福田丹波邸
- 仁風閣 (国重要文化財)
- 長田神社
- 興禅寺 (市文化財)
- 龍峯寺
- 旧岡崎邸
- 大隣寺
- 芳心寺
- 樗谿神社 (国重要文化財)
- グランドアパート (県の建物100選)
- 観音院 (国指定名勝)

※各所などに立ち寄った場合の時間です。

池田藩時代に立てられた寺院をはじめ、鳥取の歴史に大きな足跡を残した歴代の岡崎平内の屋敷、福田丹波邸など、武家屋敷もあり、鳥取の歴史を存分に感じることができます。

初代藩主・池田光仲が祖父・徳川家康を祀るため日光東照宮から分霊し寛安2年(1649年)創建。因幡東照宮とも呼ばれました。本殿は桃山時代皇の豪華な飾り金具などで美しい風格があります。

芳心寺は初代藩主池田光仲夫人の菩提寺です。夫人は紀州徳川氏の娘・茶々です。ここより鳥取城天主閣が真北に望めます。この場所と天主閣を結ぶ橋の上に夫光仲の菩提寺である興禅寺があります。

はじめは栗谷にありましたが寛安3年(1650年)に現在の地に移ります。藩主池田家の祈願寺であり、また中国観音菩薩33のうちのひとつです。昭和12年(1937年)国の名勝に指定されました。

旧福田丹波邸とともに鳥取に残る二つの武家屋敷の一つです。福田丹波邸が基本的な武家屋敷であるのに対して岡崎邸は全国でも類をみない異色の武家屋敷です。建築は天保6年(1835)です。

3500石の福田丹波の屋敷です。文政元年(1818)に建てられ、昭和18年の地震と、昭和27年の火災に奇蹟的に残りました。庭からは、久松山が正面に見えます。

国の重要文化財。明治40年(1907)皇太子(のちの大正天皇)の鳥取行啓の御座所(宿泊所)として池田仲博が建てたものです。土地は、江戸時代、廟之邸という御殿もありました。

初代藩主・池田光仲の曾祖父・豊前守の子の豊前守など池田光仲の先祖にあたる5人の菩提をとむらう寺院です。殿早、短路、岡山、鳥取と移ってきました。庭は鳥取市の三名園と言われました。

初代藩主光仲の菩提寺。寛安宗(おうはくしゅう)の寺院。米子荒尾氏や刺家・渡辺数馬の墓所でもあります。庭は鳥取市3名園のひとつ。庭のキリシタン灯籠は県指定保護文化財になっています。

コラム 四ヶ寺と八ヶ寺

池田家の菩提所(四ヶ寺)や祈願所(八ヶ寺)として高い寺格を与えられていたお寺。「四ヶ寺」のうちの三ヶ寺、「八ヶ寺」のうちの五ヶ寺が久松連山のふもとに集中しています。

【四ヶ寺】……大雲院、興禅寺、龍峯寺、慶安寺
 【八ヶ寺】……日香寺、芳心寺、真教寺、最勝院、観音院、宝珠院、法泉寺、妙要寺

コラム いつ建てられた? 「岡崎邸」

「岡崎邸は何時建てられたのですか?」
 「御目付日記によれば、天保6年(1835年)1月23日、岡崎邸建築が許可されている。この時の建物の仕様(惣土台構え)、大きさが、現存する岡崎邸と完全に一致する」
 「屋敷には建てた年を示すようなものがありますか?」
 「棟札が無いのが残念だ。しかし天保6年7月の記載のある炬燵蓋が三部屋から出てきている」
 「すると、天保6年1月に建築許可され7月には概ね完成していたということですね」
 「そうだ」
 「短期間の工事ですわね」
 「総土台構えは短期工事向きだ。それに前もって準備していたんだ」

御目付日記。目付とは行政を監督している役人

岡崎邸は、建物が大きく、柱などの部材が太い。壁土も良いし、良い材が使われている。仕上げが丁寧で美しいですね

武家屋敷とはこういうものですか?

ワシの家を見てどうだったかな?

「行って「見て」感想」

岡崎邸に

なぜこのような建物が建てられたのでしょうか?

「そうだ」

標準的な武家屋敷ではなく、全国的にも例のない武家屋敷ということですか?

「そうだ」

不思議な建物だな。俺は大工だから建てた技術はわかる。しかしこのような屋敷が建てられたのは岡崎家の歴史がわからなければ、わからないな

岡崎邸を見た、宮大工・田中文男棟梁はこう語った

案内ありがとうございました! ごさいました!

分かったかな

お*わ*り

徳川11代将軍・家斉の娘で9代藩主・池田斉訓(なりくに)夫人である。岡崎平内がその建築を命じられた

なるほど

泰姫

泰姫とはどなたですか?

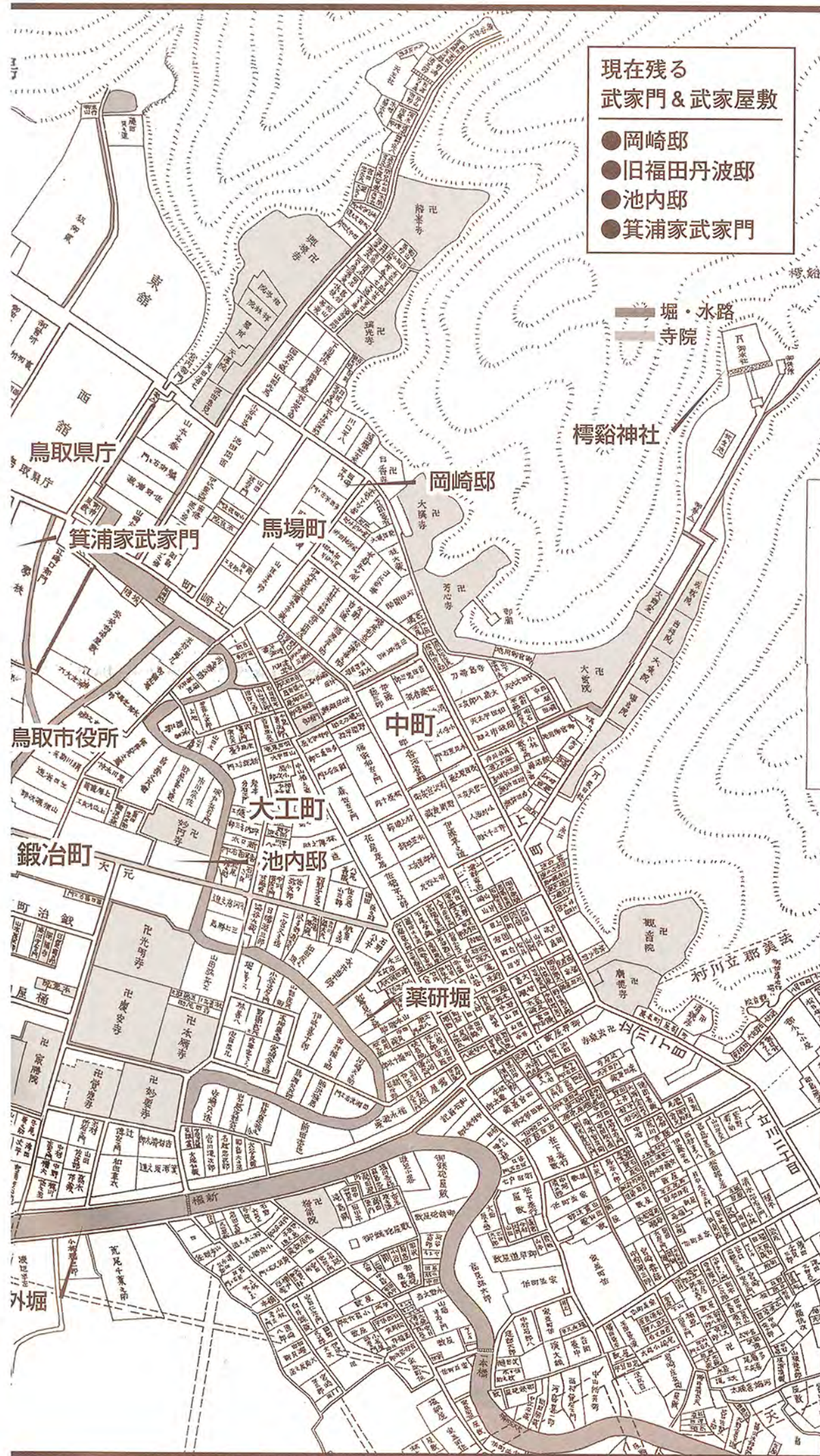
「泰姫御殿」建築に先立っての試作品だ

- 武家屋敷の常識を超えた 岡崎邸の価値**
- ①「総土台構え」という当時の武家屋敷としては稀な構法で建てられたこと(通常は外周のみに土台を回すのが一般的)
 - ②屋根を板葺き(原文:取葺き)とし、瓦葺きとしなかったこと
 - ③柱の大きさが5寸2分角(157mm 強・通常:4寸(120mm))と太い構造部材を用いていること
 - ④「質実剛健」を意匠の基調として、床・壁・柱・土間に至るまで堅固な構造を追求していること
 - ⑤強い地震に耐えらる(昭和18年(1943)の地震時のひび割れが僅少)
 - ・しっかりと地盤改良(深い地盤改良)
 - ・換気の良い床下
 - ・床下の部材に湿気に強い栗材を使用
 - ・しつかりした軸組み(重なる梁による横桎)
 - ・多い土壁量
 - ・粘りの有るしつかりした土壁(須佐の多い土壁)
 - ・丁寧な工事(母屋に至るまで金輪枝、柱の背割りの開き止め)
- このような多くの特殊性を持った建造物、それが岡崎邸なのです。

安政6年(1859年)

- 岡崎邸
- 旧福田丹波邸
- 池内邸
- 箕浦家武家門

堀・寺院



※地図は「別冊鳥取藩史絵図」より転載

「NPO市民文化財ネットワーク鳥取」のご案内

ホームページ：<http://www21.ocn.ne.jp/~cchnt/>

歴史遺産は、心の支えです。生活を豊かにし、楽しくします。「NPO市民文化財ネットワーク鳥取」は、鳥取の歴史遺産を見直し、調査し、修復・保存・技術伝承をめざし、かつ観光資源活用しながら鳥取らしさを創造する団体です。

●主な活動

◎歴史的建造物等の調査

◎町づくり計画の調査と提案 ◎歴史遺産に関する地域学習

地域並びに県外の各種エキスパートを集めて詳細に調査し、その内容をお知らせしています。

●今後の活動予定

◎景観づくりへの提案

◎伝統技術の育成と継承 ◎保存活動の成果物の出版

各武家屋敷等を調査し、鳥取のまちを誇りあるものとするため、既存の歴史遺産を有効活用した「鳥取歴史散策路」（通称「とっとり歴みち」）の整備を提案したいと思います。



お問い合わせ（事務局）

住所 〒680-0022 鳥取県鳥取市西町 1-106

TEL:0857-26-1151 FAX:0857-22-4103 E-mail:wako106@theia.ocn.ne.jp

●入会希望の方は事務局までメールまたは電話でお気軽にお問い合わせください。